

群馬大学地域貢献事業・群馬県立歴史博物館協力
群馬大学総合情報メディアセンター中央図書館荒牧祭特別展示

群馬県の古墳発掘の父 尾崎喜左雄博士展

～群馬県内の古墳発掘・調査の歴史を識る～

尾崎喜左雄博士(群馬大学名誉教授)は、昭和23年から45年と長年にわたり県内の古墳発掘調査に携わり、県内270以上もの古墳の調査を行った。国内でも有数の古墳王国である群馬の考古学の礎を築いた研究者である。尾崎博士の長年の研究成果は、現在まで群馬大学教育学部に保管されており、「考古遺物・記録・写真」の3点が揃った調査資料は全国でも類を見ない貴重な資料であると専門家から評価されている。

2016

日時

11/12(土)・13(日)

9:00~17:00

入場無料

会場

群馬大学総合情報メディアセンター中央図書館1F

11月12日(土) 11:00~、14:00~

群馬県立歴史博物館 教育普及係長 深澤敦仁氏によるギャラリートークを開催します。

[お問い合わせ]

群馬大学総合情報メディアセンター中央図書館
〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町4-2

TEL.027-220-7185 FAX.027-220-7184 URL : <https://www.media.gunma-u.ac.jp/>

展示にむけて



このたび群馬大学地域貢献事業として、総合情報メディアセンターにおいて群馬県の高墳発掘の父と称される「尾崎喜左雄博士展」を開催する運びとなりました。尾崎先生は、群馬県師範学校（現 群馬大学教育学部）教授として昭和23年から20年以上にわたり県内270以上もの高墳調査を行い、国内でも有数の高墳王国である群馬の考古学の礎を築いた研究者です。

本展は、群馬県立歴史博物館の全面協力のもと開催することができました。尾崎博士の「考古遺物・記録・写真」の3点が揃った調査資料は、全国でも類を見ない貴重な資料と評価されています。ゆっくりご覧いただき群馬の高墳、東国文化の中心としての群馬に思いを馳せていただければと思います。

群馬大学総合情報メディアセンター長 田中麻里

尾崎喜左雄博士と「東国文化研究」

尾崎喜左雄博士は、戦後における群馬県の高墳研究を牽引した人物のひとりです。尾崎博士が着手した高墳発掘は、昭和23年の前橋市粕川町（当時：勢多郡粕川村）の鏡手塚古墳にはじまり、太田市鳥山上町の鶴山古墳、東吾妻町三島の四戸古墳群、佐波郡玉村町の芝根古墳群、前橋市広瀬町の前橋天神山古墳など、その数は300基を超えるほどです。

尾崎博士は、群馬県の高墳研究を基礎とし、その成果を古代史研究と融合させることにより東国文化を再構成することを大きな研究の柱としていました。

地域の歴史（郷土史）研究を進めることこそが、正しい日本史理解につながることを説き、東国という地域で生涯を通じてそれを実践してきた尾崎博士は、まさに「東国文化研究の先駆者」の名にふさわしい人物です。

昭和53年1月4日に鬼籍に入られましたが、尾崎博士の「東国文化研究」のDNAは、多くの愛弟子に託され、今もなお、受け継がれ続けています。

尾崎喜左雄博士 略歴譜

明治	37/5/30	出生、神奈川県足柄上郡川村（現山北町）
大正	15/3/6	日本メソヂスト静岡教会にて受洗
	15/4/1	東北帝国大学法文学部（法律学科）入学
昭和	2/4/1	九州帝国大学法文学部（法律学科）入学
	5/3/31	同大学卒業、法学士
	8/4/1	東京帝国大学文学部国史学科入学
	11/3/31	同大学卒業、文学士
	11/5/1	日本古文化研究所研究生（京都帝国大学文学部考古学研究室にて高墳研究）
	11/8/1	群馬県嘱託（史跡係、社寺兵事課勤務）
	17/8/17	群馬県史跡主事
	18/2/10	群馬県師範学校教授嘱託
	24/7/31	群馬大学教授
	37/3/31	文学博士（東京大学）



尾崎喜左雄博士の高墳研究のきっかけ

尾崎博士は、出身の東京大学では主として古代史を中心とした歴史学研究的研鑽を大いに積んだ人で、元々は考古学者では全くありませんでした。博士が考古学研究に従事するようになったのは、昭和11年に群馬にやって来たことが関係しています。昭和10年に実施さ

れた県下一斉高墳分布調査の成果を取りまとめるために群馬県から招かれたからです。

古代史研究者として活躍が約束されていた博士が（当時32歳）、新たに考古学の分野に入ることをためらったのは想像に難くありません。その際、「群馬の高墳から古代史の資料を得ていく」ことを研究テーマとすることで、群馬への着任を前向きに位置づけたようです。

着任するや、分布調査で確認された8423基のすべての高墳を自らの足で直接確認することから始めました。博士の高墳研究は、まず群馬の高墳の全体像を把握することから始まったわけです。これらの高墳を古代史資料にするということは、一つ一つの高墳に正しく年代を与えていく必要に迫られました。尾崎博士の高墳研究の最大の特色であり、今も輝きを失っていない成果は、「高墳の編年的研究」にあるわけですが、その研究テーマは、群馬にやって来た最初にすでに見据えられていたこととなります。

群馬県立歴史博物館長 右島和夫



南下高墳群（北群馬郡古岡町南下）の発掘調査現場での尾崎博士



平塚古墳（高崎市八幡町）での発掘状況を説明する尾崎博士（写真左）

尾崎博士の業績

Result of OZAKI Doctorate



不二山高墳（前橋市文京町）



昭和29年に発掘調査が行われた、6世紀の前方後円墳です。横穴式石室からは、金銅製冠など、数多くの副葬品が出土しました。平成9年4月に前橋市史跡に指定されました。（写真：横穴式石室内部の調査風景）

三本木A号古墳（藤岡市三本木）



昭和29年に発掘調査が行われた、6世紀末から7世紀初めの円墳です。凝灰岩製切石積の横穴式石室が比較的良好に残存していました。（写真：横穴式石室の調査風景）

中里塚古墳（伊勢崎市赤堀今井町）



昭和28年に発掘調査が行われた、7世紀の円墳です。截石切組積の横穴式石室を埋葬施設とする、県内有数の終末期高墳であることが明らかになりました。（写真：横穴式石室の測量風景）

壇塚古墳（前橋市粕川町）



昭和25年に発掘調査が行われた、6世紀の円墳です。墳丘からは家・人物などの形象埴輪が発見され、横穴式石室からは直刀や鉄鏃などの副葬品が出土しました。昭和26年10月に群馬県史跡に指定されました。（写真：石室内の副葬品出土状況）

鶴山古墳（太田市鳥山上町）



昭和23年に発掘調査が行われた、5世紀の前方後円墳です。埋葬施設の竪穴式石室には、甲冑をはじめ、大量の鉄製品などが副葬されていることが判明しました。昭和26年10月に群馬県史跡に指定されました。（写真：板石と粘土で閉塞された竪穴式石室）

石山南古墳（伊勢崎市下舐町）



昭和27年に発掘調査が行われた、6世紀の円墳です。墳丘からは正装する女子埴輪や大型の馬形埴輪などが出土しました。（写真：正装する女子埴輪の出土状況）

昭和20年代

尾崎喜左雄先生が最初に高墳調査を手がけたのは、昭和23年7月のことでした。その高墳は、前橋市粕川町月田にある鏡手塚古墳でしたが、この調査を皮切りに、昭和23年12月には鶴山古墳（太田市鳥山上町）、昭和25年3月には壇塚古墳（前橋市粕川町）など、継続的に高墳の発掘を実施していきました。そして、昭和27年には、東京の世界社という出版社から『高墳のはなし』という、尾崎先生にとって最初の著書が出版されることとなりました。

昭和30年代

尾崎喜左雄先生が発掘調査を手がけた古墳の多くは、昭和20年代後半から昭和30年代にかけて行われました。昭和31年1月には榛名山の噴火に伴う降下軽石に完全埋没した有瀬1号古墳・同2号古墳(渋川市上白井)、昭和32年5月には舟形石棺をもつ平塚古墳(高崎市八幡町)、昭和34年3月には武人埴輪をはじめ数多くの埴輪を伴う高塚古墳(北群馬郡榛東村新井)など、その調査は途切れることなく続けられました。そして、昭和37年には、横穴式古墳の考古学研究と古代史研究の成果で構成された研究を、学位論文「古墳から見た東国文化」として東京大学に提出されました。



四戸1号古墳 (吾妻郡東吾妻町三島)



昭和39年に発掘調査が行われた、6世紀の円墳です。昭和47年3月に吾妻町(当時)史跡に指定されました。写真中央で中学生たちに説明している方が尾崎博士です。

十二山古墳 (渋川市中村)



昭和36年に発掘調査が行われた、7世紀の円墳(推定)です。人家等に囲まれており、墳丘は不明瞭でしたが、川原石を用いた横穴式石室が確認されました。(写真:石室の検出状況)

坂下町古墳群 (渋川市坂下町)



昭和37年に発掘調査が行われた、5世紀後半から末にかけての古墳群です。積石塚6基の存在が確認されました。写真左上、シルクハットをかぶり、コートを着て立つ方が、尾崎先生です。(写真:古墳群の調査風景)

有瀬1号古墳 (渋川市上白井)



昭和31年に発掘調査が行われた、6世紀の円墳です。榛名山の降下軽石に直接埋没しているという全国的にも希有な状態で姿を現しました。埴輪列も見事に検出されました。(写真:軽石で埋没した埴輪列の検出風景)

しどめ塚古墳 (高崎市本郷町)



昭和36年に発掘調査が行われた、7世紀の円墳です。ほぼ完存する横穴式石室からは、武器や馬具などの副葬品が多数出土しました。昭和37年8月に群馬県史跡に指定されました。(写真:横穴式石室内での副葬品出土状況)

高塚古墳 (北群馬郡榛東村新井)



昭和34・35年に発掘調査が行われた、6世紀の前方後円墳です。墳丘からは、武人埴輪や弓形埴輪をはじめ、数多くの埴輪が出土しました。昭和34年8月に群馬県史跡に指定されました。(写真:形象埴輪の出土状況)

『綜覧』赤堀村39号古墳 (伊勢崎市五目牛町)



昭和37年に発掘調査が行われた、7世紀の円墳です。天井石の一部が崩落していたものの、前庭を伴う横穴式石室が良好な状態で残存していました。(写真:石室の測量風景)

川内天王塚古墳 (桐生市川内町)



昭和35年に発掘調査が行われた、6世紀末から7世紀初めの円墳です。横穴式石室からは、金銅装円頭大刀をはじめ、数多くの副葬品が出土しました。(写真:石室石材を人力で動かす調査風景)

平塚古墳 (高崎市八幡町) ①



昭和32年に発掘調査が行われた、5世紀の前方後円墳です。埋葬施設である凝灰岩製の舟形石棺が2つ検出されました。(写真:舟形石棺の発掘風景)

平塚古墳 (高崎市八幡町) ②



平塚古墳の発掘調査の現地説明の風景です。写真中央で平塚古墳の発掘状況を地域住民に説明している方が、尾崎先生です。

お富士山古墳 (伊勢崎市安堀町)



昭和38年に発掘調査が行われた、5世紀の前方後円墳です。墳丘からは、多数の大型円筒埴輪が出土しました。昭和41年4月に伊勢崎市史跡に指定されました。(写真:埴輪列の出土状況)

朝子塚古墳 (太田市牛沢町)



昭和31年に発掘調査が行われた、4世紀の前方後円墳です。墳丘からは壺形埴輪や多くの円筒埴輪が出土しました。昭和54年10月に群馬県史跡に指定されました。(写真:南からみた、朝子塚古墳の全景)

昭和40年代

尾崎喜左雄博士は、昭和41年に吉川弘文館から「横穴式古墳の研究」を上梓され、それまでの古墳調査の蓄積とその考察を凝縮した成果を発表されました。

古墳の発掘は、昭和41年8月から昭和42年10月までの間に実施された玉村町古墳群（佐波郡玉村町角淵）、昭和42年12月から昭和43年3月まで実施された御部入古墳群（高崎市乗附町）などの群集墳から、昭和43年7月から昭和44年8月まで断続的に実施された前橋天神山古墳（前橋市広瀬町）などの大型古墳までにおよびました。そして、昭和45年3月の群馬大学退官までに蓄積された成果はその後の東国文化研究に大きな影響を与えることになりました。



机遺跡（吾妻郡東吾妻町岩下）



昭和40年に発掘調査が行われた、6世紀の円墳です。埋葬施設である竪穴式石槨が発見されました。写真右、シルクハットをかぶり、地域住民に説明をしている方が尾崎博士です。

四戸4号古墳（吾妻郡東吾妻町三島）



昭和42年に発掘調査が行われた、6世紀の円墳（推定）です。残存状況のよい横穴式石室の存在が確認されました。昭和47年3月に吾妻町（当時）史跡に指定されました。（写真：石室の実測風景）

金敷平F号古墳（高崎市箕郷町金敷平）



昭和40年に切り通しの法面で確認され、その残存部分の実測が行われました。6世紀に噴火した榛名山の降下軽石で直接埋没しているという希有な状態での発見でした。（写真：断面に残った古墳の実測風景）

横沢1号古墳（前橋市横沢町）



昭和44年に発掘調査が行われた、6世紀の円墳（推定）です。崩落した石材を取り除くことによって横穴式石室の存在が確認されました。（写真：石室石材の除去作業風景）

御部入5号古墳（高崎市乗附町）



昭和43年に発掘調査が行われた、7世紀の円墳です。天井石は失われていましたが、見事な横穴式石室の存在が確認されました。（写真：石室の実測風景）

御部入古墳群（高崎市乗附町）



昭和42年から昭和43年にかけて、21基の古墳の発掘調査が行われました。丘陵上に構築された、6世紀から7世紀にかけての群集墳の構造が明らかにされました。（写真：石室石材を移動する調査風景）

若宮A号古墳（高崎市八幡原町）



昭和41年に発掘調査が行われた、6世紀末から7世紀初めの円墳です。発掘された石室は、「模様積み」手法という地域色のある石積みの横穴式石室でした。（写真：墳丘の発掘風景）

萩塚古墳（佐波郡玉村町後箇）



昭和41年に発掘調査が行われた、6世紀の円墳です。横穴式石室が良好な状態で検出され、石室内からは大刀や馬具、土器類が多数発見されました。（写真：石室内部の実測風景）

玉村町10号古墳（佐波郡玉村町角淵）



昭和42年に発掘調査が行われた、6世紀の円墳です。墳丘部分の調査では、葺石が良好な残存状態のまま検出されました。（写真：葺石の検出状況）

玉村町14号古墳（佐波郡玉村町角淵）



昭和42年に発掘調査が行われた、6世紀の円墳です。墳丘盛土は高さ2m以上が残存していました。玉村古墳群では、こうした円墳が30基以上調査されました。（写真：墳丘の実測風景）

芝根古墳群での尾崎博士



昭和42年に発掘調査が行われた、芝根村1号古墳（佐波郡玉村町下茂木）での尾崎博士です。

芝根15号古墳（佐波郡玉村町川井）



昭和44年に発掘調査が行われた、6世紀の円墳（推定）です。横穴式石室からは、須恵器長頸壺や金銅製耳環などの副葬品は出土しました。（写真：石室内の副葬品出土状況）

群馬県立歴史博物館からのお知らせ

『特別展示 群馬県古墳総合調査と金井東裏遺跡』について

平成28年7月23日にリニューアルオープンした群馬県立歴史博物館では、常設展示の一新とともに、新たな展示室「東国古墳文化展示室」が加わりました。

そして、リニューアルオープン記念として、群馬県内で近年注目の2つの調査に関連する展示『特別展示 群馬県古墳総合調査と金井東裏遺跡』をこの展示室で来年3月26日まで開催しています。

第1部「古墳王国・群馬県を偲ぶ ～『群馬県古墳総合調査』の成果を通して～」では、平成24年度から群馬県教育委員会が県内古墳の現状と情報把握を目指して実施している「群馬県古墳総合調査」の成果の一端を、県及び市町村教育委員会の協力を得ながら、県内各地の古墳から出土した埴輪や金銅製品などの出土品とともに紹介しています。

第2部「甲を着た古墳人の発見と東国古墳文化 ～『金井東裏遺跡』の発掘成果を通じて～」では、平成24年11月に渋川市にある金井東裏遺跡で発見された「甲を着た古墳人」の調査成果を、(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団の協力を得ながら、出土品のほか、映像や模型も交えて速報的に公開しています。

これらの展示内容は、尾崎喜左雄博士が標榜された「東国文化」研究をより一層深めることを可能とする良好な調査成果といえますので、ぜひともご観覧いただきたいと思います。皆様のご来館を心よりお待ちしております。



特別期間中に展示されている
「高塚古墳出土の武人埴輪」

群馬県立歴史博物館

住 所 ■ 高崎市綿貫町992-1 群馬の森内

電 話 ■ 027-346-5522

U R L ■ <http://grekisi.pref.gunma.jp/>

特 別 展 示
の 会 期 ■ 平成29年3月26日まで

開 館 時 間 ■ 午前9時30分から午後5時まで(入館は午後4時30分まで)

休 館 日 ■ 毎週月曜日(但し、月曜日が祝日の場合は、翌火曜日)

平成28年11月21日から12月2日まで

平成28年12月29日から平成29年1月3日まで

入 館 料 ■ 一般200円(160円)、大学生及び高校生100円(80円)

※()内は、20名以上の団体割引料金

※中学生以下は無料

※障害者手帳などをお持ちの人とその介護者(1人)は無料

群馬大学地域貢献事業・群馬県立歴史博物館協力

群馬大学総合情報メディアセンター中央図書館荒牧祭特別展示

「群馬県古墳発掘の父・尾崎喜左雄博士展
～群馬県内の古墳発掘・調査の歴史を識る～」

平成28年11月12日 発行

発行 群馬大学総合情報メディアセンター

編集協力 群馬県立歴史博物館

〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町4-2

電話 027-220-7185

URL: <http://www.media.gunma-u.ac.jp/>